

障がい者も介助者も 安心できる 制度充実を



橋本市障害児者
父母の会 会長

藤原義久さん

子どもに障がいがあるのわたり、自分の子どもと他の障がいのある子どものために何か役に立てないかと思ひ、障害児者父母の会の活動に参加し、現在は会長を務めています。この会は障がい児者の福祉向上を目指し、障がい児者とその保護者の交流や研修、障がい児者の社会参加の援助などに取り組んでいます。障がいのある人を取り巻く制度を良くしたいという思いがありますが、個人の活動には限界があるため、この会による組織的な活動はとても重要で、みんなにとってより良い制度ができていけばと考えています。障がいのある人が身近にいないため、接する際に戸惑ってしまう人も多いと思いますが、研修や講演を通じて、知的障がいについて知っても

らうことが一番大切だと考えます。例えば、障がいのある子どもが障がいのない子どもと同じ学校に通うことも大切で、こうすることでクラスメートを始め関わる人みんなが、知的障がいについて知り、理解を深めることができると思います。橋本市近郊には、障がいのある人がある一定期間預かってくれる施設が少ないため、介助する人の負担やストレスを減らすことが難しいと感じています。今後はこのような施設などハード面の整備が充実できれば、介助する人がある程度楽になります。将来、介助している親などが亡くなった時にも、残される障がいのある人が安心して暮らしていけるような制度が確立するように、制度の充実に努めていきたいと考えています。

私は9月に開催される障がいのあるアスリートたちの全国大会「夏季ナショナルゲーム・愛知」に出場します。陸上競技、競泳などいろんな得意競技がありますが、今回はボウリングでの挑戦です。近くに練習場がないため、数多くは練習できませんが、投球フォームを改造して、本番に臨みます。努力を重ねることで、スコアがあがり、やる気がでて、自分に自信も持てました。1位になって金メダルを獲得ことが目標です。これらスポーツ以外にも趣味として、やっちゃん踊りやチェンバリーハープもやっています。このハープは、障がいがある人でも、楽譜に頼らず、印に沿って弦を弾くだけで、美しいメロディーを奏でられるもので、何回かコンサートも開きました。

私は小中学校時代を支援学校でなく、地元の西部小・西部中学校で過ごしました。入学式のときに、母が同じ学年のみんなに障がいがあることを説明してくれたおかげで、みんなに私のことを理解してもらい、自然と「あゆみちゃんルール」ができました。ルールを守ってくれたみんなの心遣いのおかげで、普段の授業や運動会なども楽しく過ごせました。当時の友だちや先生、地域の人たちの温かさ感謝しています。障がいのある人がどんな人か知らないことが「壁」になってしまい、敬遠することにつながると感じます。まずは知ってもらって、私たちが困っているときに、お年寄りに声をかけるような気軽さで手を差し伸べてもらえるような橋本市になれば、うれしいです。

日本・和歌山 アスリート
スペシャルオリンピックス

古川 亜友美さん



アスリートとして 世界を目指す

スペシャルオリンピックス

スペシャルオリンピックスは、知的障がいのある人たちにさまざまなスポーツトレーニングとその成果を発揮する競技会を提供している国際的なスポーツ組織です。

参加するアスリートが健康を増進し、喜びを感じ、家族や他のアスリート、地域の人と才能や技能、友情を分かちあうための全国大会が、9月22日から3日間、名古屋市などで「2018年夏季ナショナルゲーム・愛知」として開催されます。

橋本市からはボウリング競技に古川亜友美さんと森廣貴幸さんが参加されます。皆さんの熱い応援をお願いします。



森廣貴幸さん

知ることでもみんなの心が温かく

住み慣れた地域で暮らしていきたいと思っても、人との関わりが苦手だったり、社会生活でのルールがわかりにくかったり、ものごとに強いこだわりがあったりといういろいろなことに困っている人たちがいます。橋本市では、「すべての人が、お互いを尊重し、いきいきと安心して暮らせるまち 橋本」を目指し、お互いの人権を尊重し、共に認め合い支えあいながら、障がいのある人が住み慣れた地域社会の中で安心して生活できるよう支援すると共に、心のバリアフリーの推進にも積極的に取り組んでいます。皆さんの中で知的障がいのある人と接したことから、どんな人だろうと構えてしまったり、緊張してしまう人はいませんか。また、そのことからできる「壁」によって、困っているのを知っているながら気づかないふりをしてしまうことはよくあることだと思ひます。知的障がいについて知ることから始めることで、「壁」が徐々になくなり、気軽な声かけ、そして支援や配慮ができるようになっていきます。まずは、知ることから始めてください。そこからお互いの心が温かくなる関係が始まります。

「療育手帳」について



療育手帳は、知的障がいのある人が補助を受けるために必要な手帳です。知能指数や発達指数のほかに、身辺自立、移動、意思交換など生活の様子から判断し、交付されます。

この手帳により、一貫した相談や支援を受けることができます。支援としては、税の諸控除および減免、鉄道などの運賃の割引、各種福祉サービスなどがあります。

「ヘルプマーク」について



周りには、義足を使用している人や内部障がいのある人、難病の人など支援や配慮を必要としていることが外見からわからない人がいます。

これは、そうした人が周囲の人に配慮などを必要としていることを知らせ、支援を受けやすくするためのマークです。

ヘルプマークを見かけたら、皆さんの温かい配慮をお願いします。